

平成 29 年度 第 4 回市民協働推進委員会 議事録

- 1 日 時 平成 29 年 11 月 17 日（金） 午後 6 時 00 分から午後 7 時 30 分
- 2 場 所 豊川市役所 本 34 会議室
- 3 出席者 副会長 神谷典江・・・（特非）穂の国まちづくりネットワーク
委 員 仲野雅俊・・・元豊川市連区長会副会長
委 員 小栗慎平・・・豊川高校インターアクトクラブ顧問
委 員 荒木夏希・・・一般公募市民
委 員 竹本甲歩・・・一般公募市民
委 員 稲垣誠・・・ひまわり農業協同組合
委 員 小林孝行・・・豊川市社会福祉協議会地域福祉課長
委 員 鈴木一寛・・・豊川市市民部長
- 4 事務局 市民部次長、市民協働国際課長、課長補佐、市民協働係長 係員
- 5 傍聴者 0名
- 6 議事概要

1 豊川市民協働推進事業補助金交付要綱の一部改正について

【事務局】

- ・採択団体に事業開始前に協働の出前講座を受講することを義務付ける。
- ・公開審査について、1 事業あたりの説明時間を 10 分から 5 分に変更する。
また、説明方法を限定しないこととする。
- ・審査基準について、「協働性」のボーダーラインを 2 点から 3 点に変更する。

【委員】

限定的だったものを外すことは、使いやすくなるのでいいことだと思う。

【副会長】

規定をゆるくすることで、団体が手を上げやすくなるのかと思う。昨年度、子供さんが出てきてプレゼンをした団体があった。団体の様子が伝わってくるのでよかったと思うので、それぞれの団体のよさが伝えられる方法でプレゼンして欲しいと思う。

【委員】

協働事業が採択されているのに、協働の意味を理解されていない団体があったとは、どういう事か。

【事務局】

協働は協力して事業を進めるという事だが、対等であるということが抜けている団体があった。一緒にやるという事は理解されているが、1 つの団体が主導しているよ

うな状態は協働とは言えない。その部分について、協働の原則を説明しながら理解を深めて欲しいと思っている。

【委員】

昨年度の1件の不採択事業がどんな事業であったのか教えて欲しい。

【事務局】

カラオケのサークル活動をしている市民活動団体からの申請で、チャリティーでカラオケ大会をして、その収益を盲導犬の育成資金とするという事業。公益性がある事業だが、昨年度は申請団体が多く、順位をつけたところ最下位であったため、補助がつかなかったという状況だった。事業が不適格であったという訳ではない。

【委員】

どんな団体が申請していて採択されているのか。

【事務局】

今年度の採択団体について、資料として新聞記事を配布したので見て欲しい。町内会が学校や地元事業所と協働して、児童が町内会の草取りなどに参加するとスタンプを押し、たまったスタンプで地元の店で物と交換してもらえるとというもの。その団体が個人的に応募したところ、東京で行われたマニフェスト大賞を受賞し、市長表敬訪問をしたところがこの新聞記事。町内会長へ事業をやってどうかという話を聞いたが、今まで以上に、町内会の行事に子供が来るようになって、低学年の親は同行してくるため、行事が賑わった。今は小学校区で行っているが、来年度は中学校区に広げたいと言われていた。また、保育園からも仲間に入れて欲しいという要望ももらっていると聞いた。協働によって地域が活性化している事業。その他の事業については、市ホームページで紹介しているが、町内会や市民活動団体が学校や地元企業と一緒に、交流事業や防災活動をしたりしている。

【委員】

昨年プレゼンをみさせていただいた。子供達がいきいきとしている姿を見ていいなと思った。

【委員】

事業が年度当初に単発で終わってしまう場合は、協働の講座受講が終了後という設定になるのか。

【事務局】

こちらで講座の日を設定して、採択団体に来てもらうものではなく、各団体が事業

の打合せをする時に、こちらから出向いて 10 分～20 分くらいこの補助金の趣旨説明をさせていただくもの。

【委員】

この補助金は、同事業で 3 年間は申請できるとしているが、2、3 年目の団体にも講座を受けてもらうのか。

【事務局】

少しずつ内容を深めていき、受講してもらう。

【副会長】

みなさんの質問は出尽くし、改正について納得いただけたと思う。この事務局（案）で進めていただく事です承とさせていただきます。

2 とよかわ市民協働推進計画（案）

（1）第3章について

（2）その他

【事務局】

第3回委員会において、各委員から計画で実施する事業を提案いただきたいをお願いしたところ、多くの有効な事業提案をいただいた。それをできるだけ反映した形で第3章を作成した。第4回委員会の前に、委員に個別に説明に伺い、第3章を事前に目を通していただき、修正等について委員会の前までにご意見をいただくこととしていた。本日お渡しした計画（案）は、委員から修正のご指摘をいただいた箇所を朱書きしてある。これで、とよかわ市民協働推進計画を確定したいと考えている。

また、各課に対して、計画（案）の内容確認をしたところ第1・2章中で修正した箇所がいくつかある。内容の変更はなく、字句の誤りのような指摘であったため、説明は割愛する。元号変更に対応するため、過去値は和暦と西暦の並列表記、未来値については西暦表記とした。

計画はページ数が多く、なかなか見てもらえないので、概要版を作成し、それをもって市民に広く周知していきたいと考えている。本日の配布資料として概要版も置かせていただいている。

【副会長】

この計画を作るにあたって、委員のみなさまから多くの事業提案をいただいたと事務局から聞いている。ご協力に感謝したい。事前に事務局から各委員へ説明があり、本日までに修正した部分について説明があった。この修正以外にご意見があったらお願いしたい。

【委員】

目標指標が現状値から8年計の数値だと、取り組み状況が見えにくい。8年平均としたらどうか。

【事務局】

事業の開始時期が8年間の終わりの方に設定しているものもあって、10事業を実施したとしたら、8年で割って1事業ということになると、取り組み状況が分からなくなる。8年間でどういうことをやってきたかという事を評価して欲しいと考えているので、計画期間でどれだけ取り組んできたかが分かるような表記としている。

【委員】

事務局の考え方がしっかりしていればよいと思うので承知した。

【副会長】

市民に評価されてこの計画も生きてくるので、目処が立てやすいという事務局の考えも理解できる。過去の豊川市の施策もこのような表記のものが多い。

【委員】

さきほどの説明で市民協働推進事業補助金の補助事業数が現状の8事業を8年計で50事業にする目標設定は、目標が低すぎないか。予算が理由というのは、やる気がないと感じる。

【事務局】

予算がないからやらないというのは言うてはいけないこと。必要なら予算を取りに行くのが本来だと思っている。ただ、この事業について事業数を増やせばいいというものではなく、よりいい事業に補助するという事を考えていきたい。補助は3年を限度として設定しており、以降は自立した活動に繋げて行って欲しいというものなので、そのような事業や団体への補助としていきたい。今後、制度を積極的に周知し、活性化を図っていきたいと考えている。

【副会長】

委員がご指摘したとおり、予算がないという事で尻つぼみになっていくのはあってはいけないこと。ただ、自分が市民活動をしていてたくさんの協働事業を行ってきたなかで、市からの支援がなければできないということはなかった。支援がなくても協働できるということを、市民協働国際課から発信していただきたい。ただ、協働が進んでいき、市からの支援が必要な団体が増えてきた折には、積極的に予算取りをして行って欲しいと思う。

【委員】

自分の考えていた町内会と地元商店とのコラボが豊川市で始まっていたというのを新聞記事で知った。子供が関わってくると地域も活性化すると思うので、こんな取り組みが広がっていくといいと感じている。

【副会長】

楽しくなければ活動は続かないので、このような発想が地域活動に生きてくるのは嬉しいと感じている。スタンプのポイントの付与に当たって、地区の役員と子供が繋がってきているのもいいことだと思う。この事業がマニフェスト大賞をとったので、豊川市でさらに広がっていくといいなと思っている。

【委員】

親になると子供につられていく行事が地域活動には多い。これからは子供をまきこんだ事業を積極的に取り組んでいくとコミュニティが活性化すると思う。

【副会長】

いいモデルが豊川市でできたということで、この活動がもっと広がっていくといいと思っている。

【事務局】

町内会役員を集めて行うコミュニティリーダー養成講座で、来年度に諏訪一部町内会の事例発表をしていただきたいと考えている。

【委員】

体系図が見やすくなっていてよい。補助金の話だが、学生時代にやりたくてもお金がなくてできないということがあり、補助を受けて事業をやらせてもらった経験がある。信頼できるところからの支援は必要だと思う。その活動は3年で終わってしまったので、申し訳なく思っている。補助金をもらった団体には事業を継続し、どんどん広がっていくように頑張りたいと思っている。

【委員】

補助金の要綱の説明の中で、採択団体へ出前講座を義務付けるという話があった。採択されている団体の事業内容は決定しているため、事業内容を変更することはできないので、その前に協働について学ぶ機会があったらよい。

【副会長】

豊川市では協働の手引きを作成し、各団体に送付して、協働の啓発をしている。私を感じているのは、協働について理解しているはずなのに、事業をするなかで抜け落

ちてしまうことがあるということ。採択された団体に再度、協働の意味を知る機会をもうけて事業に取り組んで欲しいという狙いだと思う。採択団体でなくても、協働の講座は市としてやっているのではないか。

【事務局】

市民協働国際課で、協働の出前講座は行っている。ただ、オファーがないのが現状。

【副会長】

委員からこのような意見が出るのは、周知が足りないということだと思う。協働の手引きなどを使って、積極的に広報を図って欲しいと思う。

【委員】

45、46 ページの体系図の新規事業の二重丸が数字にかかっている部分がある。また、このような形で掲載すると重点事業がバラバラしているのが気になるので、重点事業を実施施策の一番上に置いたらどうか。

【事務局】

事業の順番を変更するというご意見でよろしいか。検討させていただきたい。

【委員】

社会福祉協議会でも公開プレゼンを行っているが、マンネリ化しているので変化をもたせる必要があると意見が出ている。市の事業内容と重複しないように検討していきたい。計画期間が 8 年間というのは長いと感じる。4 年で中締めをしたらどうか。

【事務局】

多くの計画は 5 年で見直しという形で作られているが、総合計画の計画期間は 10 年で、この計画は総合計画と計画期間を合わせていきたいということで 8 年間とした。今後、大きな社会的な変化があった場合には、その都度見直しをしていく予定でいる。

【副会長】

新規事業は調査期間も必要だし、計画期間内は評価・検討をしながら進めていくので、8 年間でしっかり取り組んで欲しい。また、協働補助金と社協の補助金は性質が違うものなので、相乗効果が出るようなものにして欲しい。

【委員】

事業として若年層への取り組みがあるが、若年層の年齢を高校生より下げたってもいいのかなと感じた。小学生の参加があれば、その親をまきこんでいけるのではないか。今後、いろんな事業展開ができるとうい。

【副会長】

今年から、まちづくりについて中学生の意見を聞く取り組みを行っている。今年度は3校回ったが、かなりいい意見が出ている。自分達でなんとかしたいという気持ちが中学生にはある。小学生でも柔軟ないい意見が出るのではないか。社協ではボウたま隊という小学生がボランティア体験する事業がある。これは福祉に特化したものなので、町内会のメニューがあるといい。

【委員】

社協では、全ての小学校と中学校や高校でも実践教室という事業がある。ボウたま隊は4～6年生が対象であるが、指導するのは高校生や大学生である。そこで世代間の繋がりができ、いい事業になってきていると感じている。

【副会長】

子供が、自分がやったことを家庭で話すことで、家族に市民活動の意識が浸透したりするので、それぞれの年代に合わせた取り組みをしていく必要があると思う。単独でやっていることだけでは、広がっていかないの、それぞれがやっていることを情報共有していかないといけない。基本方針1で情報の共有が提示されているので、しっかり取り組んで欲しい。役所でも各部署が縦割りとなっていて、情報共有が図られていないと感じることがよくある。その船頭を市民協働国際課でとっていただきたい。

今後のスケジュールをふまえると、本日の委員会でこの計画を確定しないとけない。さきほどの体系図の表記の変更については、事務局への宿題となっているが、その他に意見があるか。概要版も配布されているが、これは確定か。

【事務局】

概要版の内容は本編を抜粋したものなので、流れはこんな感じで作っていくこととしており、本編に合わせていく。概要版で市民へ計画内容を広く周知していく予定であり、印刷業者に依頼する。本編は手刷りであるため、さきほどご指摘いただいた体系図の丸印などは出来るだけきれいに直していく。

【委員】

47 ページにある基本方針の体系図の実施策も太字にして欲しい。それ以降の方針についても同様。

【事務局】

修正します。

【委員】

「地域と行政がしっかりと支えているまち」が目標となっているが、どのようなまちなのか、内容が説明できない。他の委員がどのように説明するのか聞いてみたい。

【副会長】

これは、総合計画から引用したものだと思うが。

【事務局】

副会長が言われたとおり、総合計画から引用したもの。事前に担当が各委員に説明をさせていただいた際に、会長からどういうまちを目指して協働を進めていくのか、一言で表すとどのような言葉になるのか、委員の考えを聞いてみたいという事を言われていたという話をさせていただいている。委員が考える協働のまちがこの目標と重なっているのかご意見を伺いたい。

【副会長】

「地域と行政がしっかりと支えているまち」はどのようなまちなのか、みなさんがどうお考えなのか、会長からの宿題ということなので、それぞれ意見をお願いしたい。

【委員】

「笑顔があふれるまち」というイメージがある。それは地域と行政だけではなく、地域と地域でもいい。豊川に住む人がみんな笑顔になればいいと思っている。

【委員】

「しっかりと支えているまち」を「しっかりと支え合うまち」とした方がいいのではないか。

【副会長】

私は総合計画の審議会に参加しており、そのような議論はあった。「支え合う」というと誰かに依存しているように感じてしまうので、1人1人が主役という意味で「支えている」を採用した。総合計画は豊川市全体で進めていくものであるので、方向性は同じにしていけないといけないと思う。市民協働の目標を別に定めるのは難しいのかなと思う。みんなでまちに関わろうというのをイメージして「しっかりと支えているまち」としていると説明してもいいかと思う。

【委員】

副会長の説明を聞いていて、地域と行政が豊川市の大黒柱だということだと理解できた。

【委員】

市民と行政が協働に取り組む意味を考えてみた。豊川市は宝飯郡と合併したことによって大きくなったので、行政が視野を広くして政策を行っていかなければならない。行政の目が届かない範囲を市民の力を借りていくことで、一緒にまちづくりをしていくことなのかなと思う。目標のまちとしては、これをやりたいと思った時に賛同して一緒にやってくれる人が多くいるまちをイメージしている。

【委員】

市職員だけではなく、豊川市に関わるみんながこのまちに誇りを持って、自分のまちは自分でつくるということをイメージして「地域と行政がしっかりと支えているまち」としているのかと感じたので、目標はこれでいいと思う。

【委員】

みんなが主役になって豊川のまちづくりを進めていければいいと思う。

【副会長】

主役になるとそれが生きがいになり、生きがいができる健康にもなり、寿命が伸びる。地域の一員として活躍するのはそういういいサイクルができると思っている。「地域と行政がしっかりと支えているまち」はどんなまちかという質問があったら、今、委員のみなさんから出た意見を説明してあげればいいと思う。

【事務局】

本日欠席されている委員からも事前にご意見を伺っている。「私が思う目指したい豊川市の姿として、市民ひとりひとりが輝くことでより輝く豊川市に。ひとりひとりが自分の生活のため、他人のため、市のために動くことで、市全体の活気が高まり、市が潤うことで、結果的にひとりひとりの生活がより豊になるというサイクルができると思います」という意見をいただいた。

【副会長】

協働のまちでみなさんがイメージするものが、「地域と行政がしっかりと支えているまち」で表現できているとみなさんが納得いただいた。

1つお願いしたいことがあるが、表紙に掲載されている協働のマークの説明をどこかに入れておいて欲しい。せっかく協働のマークを作ったのに、周知されていないのが残念だと感じている。

他に意見がないようなので、これで確定させていただくことでよろしいか。さきほど、事業の掲載順序についての指摘については、委員会を開いて議論する余裕もないので、事務局で検討してその承認については、会長と副会長に一任いただきたいと思います。よろしいか。

【委員】

異議なし

【副会長】

では、これで本日の議題1、2についてはみなさまに了承いただいたということとする。

(2) その他

【事務局】

副会長から説明があったように、修正を検討させていただく箇所については、会長、副会長、事務局に一任という形とさせていただく。今後の流れとして、12月中旬に議会説明、12月20日から翌年の1月18日の期間でパブリックコメントを実施し、そこで出た意見を反映させる部分は反映し、次回の委員会で提示させていただく。

次回の委員会は平成30年2月16日（金）18時から、本34会議室で行う。